

# 適用

## 授業の学びを身近な現象に生かす

1 単元名 日なたと日かげ（第3学年）

2 指導のねらい

より身近な現象（洗濯物を干す）を導入とまとめに用いて、興味・関心を高め、日なたと日かげの性質を観察し、現象を正確に理解し、どうすれば洗濯物がより乾きやすくなるかという日常生活の課題に適用できるようにする。

3 実践の内容

第3学年「日なたと日かげ」〔全5時間〕（本時5／5時）

第1次（5時間）

【学習活動】

1 日なたと日かげのあたたかさの違いを手で触って調べる。

2 日なたと日かげの地面のあたたかさを、温度計を用いて調べる。

3 日なたの地面はどうして日かげの地面より温度が高いのか、予想を立て調べる。

4 日なたの地面は、日かげの地面に比べて温度が高いことをまとめる。

5 洗濯物がより乾きやすくなるような方法を考え、実際に乾かし、調べる。

（1）本時の学習の流れ

- ① 前時までの学習を振り返り、問題を作る。
- ② 学習した内容を関係付けながら、予想を立てる。【適用】
- ③ 洗濯物がより乾きやすくなる実験方法を考える。【適用】
- ④ 実験をして、結果を記録する。
- ⑤ 実験方法と実験結果を発表する。
- ⑥ 単元のまとめをする。

（2）授業の実際

問題

日なたと日かげのちがいを生かして、せんとく物を早くかわかすには、どうすればよいのだろうか。

予想



今までの日なたと日かげの学習を思い出して、洗濯物が早く乾く方法を考えましょう。



太陽の光がたくさんあたる日なたに洗濯物の全部が当たると早く乾くんじゃないかな。

家の洗濯物を干している様子を思い出してやってみようよ。



洗濯物が乾いたか調べるにはどうやったらいいのかな。

### 指導のポイント



洗濯物が乾く前と乾いた後の重さを量って調べている様子

- ①これまでの生活体験と今回の学習内容を想起しながら、予想を立てられるように、大型テレビで画像を提示する。
- ②自分の家にある持ち物の中から洗濯する物を持ち寄り、学習した内容を、今後の日常生活に適用させるようにする。
- ③洗濯物が濡れている状態の重さと乾かし終わった時の重さを量り、数量的に表せるようにする。

### 児童の実験の様子

予想の段階では、普段の家での洗濯物の干した方の様子を見て参考にして考えていた児童が、実験をやっている中で、「洗濯物自身が日かげを作ってしまう事」に気づき、さらに日なたに洗濯物を当てられるように考えながら取り組んでいった。



家ではこうやって干していたよ。

日なたに洗濯物が全部当たるにはこうやってかざせばいいよ。



一人で持ったらうまく当てられないから二人で広げよう。



## 4 成果と課題

本実践より、学習した内容を日常生活のより身近な活動（洗濯物を干す）に関係付けたことで、学習したことをより理解し、生活に生かしていこうとする意識を高めることにつながると分かった。また、予想の段階では「これまでの家での洗濯物の干し方が一番」だと思っていた児童が「もっと早く乾かすにはこうしたらいい。家に帰ったらお母さんに話そう。」と家庭を巻き込んだ豊かな学びにつながることも分かった。今後の課題は、洗濯物を干すという活動だけでなく、より多くの日常生活での事例をいかに授業に取り入れていけるかということである。さらに検討していきたい。

(浅見 薫)

